

指定管理者制度導入施設の管理運営実績について(平成27年度)

調査表

施設名	県立農業大学校農業総合研修センター及び宮崎県農業科学公園
指定管理者	学校法人宮崎総合学院
指定期間	平成27年4月1日から平成30年3月31日(3年間)
県所管部課	農政水産部農業経営支援課

1 施設利用状況

指標	H27	H26	H25	増減理由等
研修実績(延べ人数)	17,819	14,587	12,781	指定管理導入による研修内容の充実により、研修実績、宿泊者数ともに増加している。 一方、農業科学公園入園者数は減少しているが、これはゴールデンウィークの天候不良等によるものと考えられる。
研修宿泊者数(延べ人数)	1,461	961	1,985	
農業科学公園入園者数	211,220	254,101	254,387	
農業科学館入館者数	34,338	33,799	39,706	
コメント	今後も研修内容等の充実にも努めるとともに、ホームページや各種広報媒体を活用したイベントの周知などにより、利用者数の増加を図っていく。			

2 施設収支状況

(単位:千円)

収入	H27	H26	H25	支出	H27	H26	H25
指定管理料	63,271	—	—	人件費	44,955	—	—
利用料金	1,079	—	—	光熱水費	9,672	—	—
生産物売払収入	16,332	—	—	事務費	13,000	—	—
その他収入	12	—	—	その他	12,971	—	—
合計(①)	80,694	—	—	合計(②)	80,598	—	—
収支差額(①-②)	96	—	—				
コメント	指定管理1年目ということもあり、当初積算では想定していなかった費用等が発生したが、効率的な運用や費用の削減により対応し、安定的な運用を行ったことは高く評価できる。						

3 管理運営状況

※下線部分は、平成27年度に新たに取り組んだ内容

事項	実施内容	
維持管理業務	清掃	研修センター事務室の日常清掃及び年1回の床面ワックスがけ、農業科学館・管理棟・ふれあい館・物産館・フラワーハウスの床面及び窓ガラス清掃、農業科学館雨樋清掃、除草等
	保守・点検	浴槽水質検査(年3回)、貯湯槽(年1回)、重油地下貯蔵タンク(年1回)、除草・芝刈り(年6回以上)、ビニールハウス自動開閉装置動作点検(年1回)、環境制御システム動作確認(年1回)、ハウス用加湿機動作確認等(年1回)等
	警備	(県立農業大学校による警備)
	修繕	運搬車スターティングモーター修理、乗用草刈り機ラビットモア修理等
	備品等管理	備品等修繕(随時)
	安全対策	危機管理間マニュアルの整備、消防訓練の実施、土日祝日の公園職員1名増員、公園遊具点検(年1回)
	その他	公園全体の植栽管理(芝生、花壇、樹木等)
企画運営業務	サービス提供体制整備	利用者アンケート(12回)、農業総合研修センターの休日利用や農業体験休日受入への対応
	イベント等ソフト面充実	主催研修・イベントの充実、ホームページの充実、農業科学公園パンフレットのリニューアル等
	施設設備等ハード面充実	県によるみやざき農業実践塾ハウスを4棟増設、指定管理者による耕作放棄地の解消とその有効活用
	その他	—
管理運営体制	緊急連絡網の整備	
コメント	みやざき農業実践塾の運営や各種研修の実施などに精力的に取り組んでおり、研修実績等が増加している。また、維持管理業務においても、特に指摘する事項はない。	

4 利用者満足度状況(利用者満足度調査、苦情・要望対応)

調査等方法	アンケート調査(宿泊利用者に7回実施(回答84人)、リカレント研修受講者に5回実施(回答106人))	
調査結果、主な苦情・要望内容	その対応結果等	
農業はとても楽しかった。部屋も気持ち良かった。	今後も研修内容の充実、施設の適切な管理に努める。	
専門用語ではない説明で初心者にもわかりやすい研修であった。	今後も経験豊富な講師の選定に努める。	

5 総合評価

評価コメント	指定管理初年度であるため、想定していない事案等もあったが、柔軟に対応し、円滑な事業実施ができた。新たな担い手の育成、農業の普及啓発等の目的に沿った運営がなされている。
今後の課題と対応	施設や農業用機械等の老朽化について、今後改善を図っていく必要がある。